

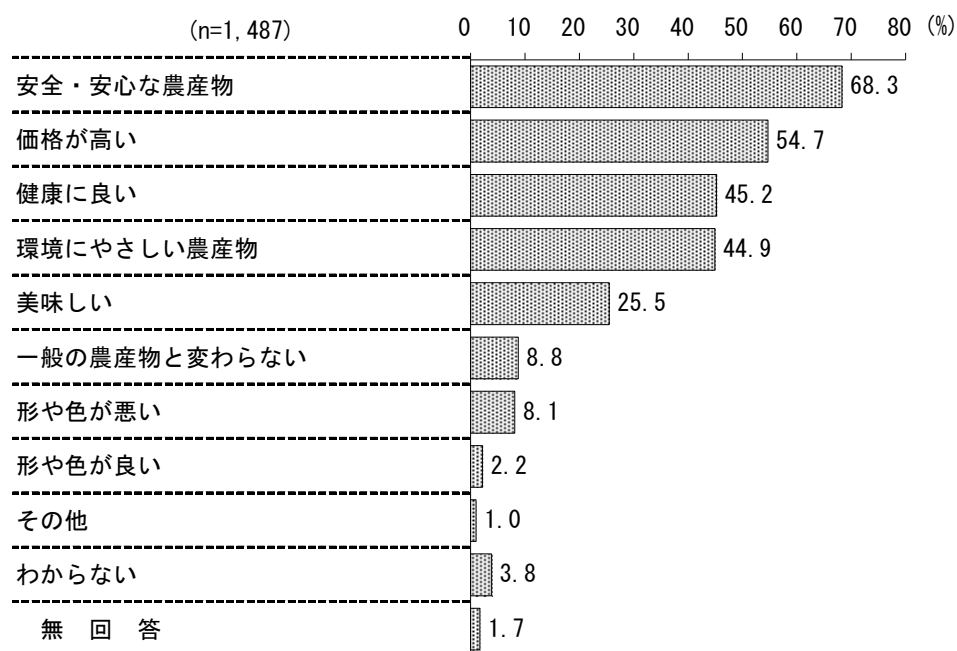
9. 有機農業について

(1) 有機農業の農産物に対するイメージ

◇「安全・安心な農産物」が約7割

問30 あなたは有機農業により生産される農産物に対してどのようなイメージを持っていますか。(〇はいくつでも)

<図表9-1>有機農業の農産物に対するイメージ



有機農業により生産される農産物に対するイメージを聞いたところ、「安全・安心な農産物」(68.3%)が約7割で最も高くなっている。以下、「価格が高い」(54.7%)、「健康に良い」(45.2%)、「環境にやさしい農産物」(44.9%)と続いている。(図表9-1)

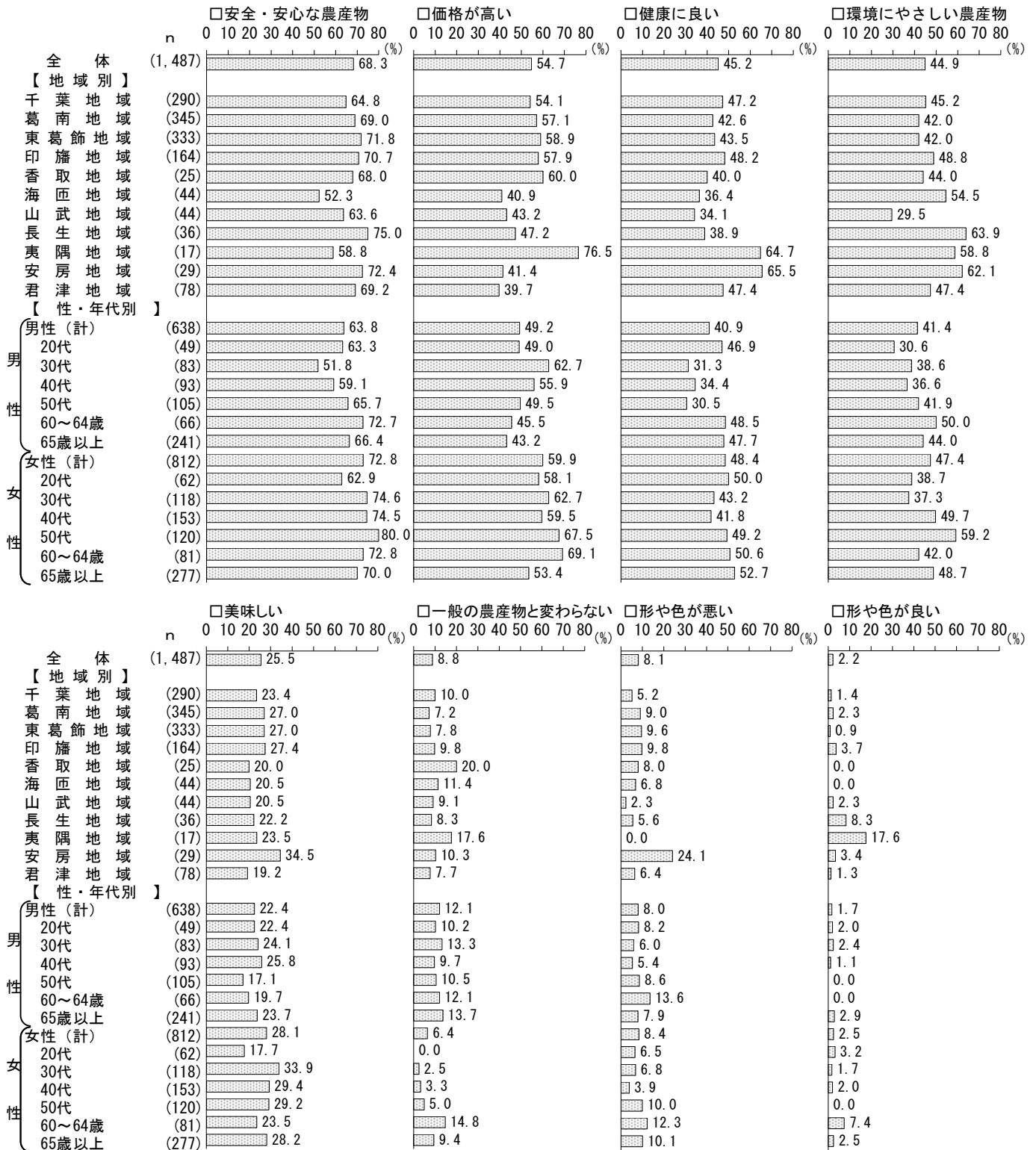
【地域別】

地域別にみても、「安全・安心な農産物」は“長生地域”(75.0%)、“安房地域”(72.4%)、“東葛飾地域”(71.8%)、“印旛地域”(70.7%)が7割以上で他の地域に比べて高くなっている。「価格が高い」は“夷隅地域”(76.5%)が7割台半ば、「健康に良い」では“安房地域”(65.5%)、“夷隅地域”(64.7%)が6割台半ばで他の地域に比べ高くなっている。「環境にやさしい農産物」は“長生地域”(63.9%)、“安房地域”(62.1%)が6割以上で他の地域に比べて高くなっている。(図表9-2)

【性・年代別】

性・年代別にみても、「安全・安心な農産物」は女性の50代(80.0%)が8割、「価格が高い」では女性の60～64歳(69.1%)、50代(67.5%)が約7割で他の年代に比べて高くなっている。「健康に良い」は女性の65歳以上(52.7%)が5割を超え、「環境にやさしい農産物」では女性の50代(59.2%)が約6割で他の年代に比べて高くなっている。(図表9-2)

<図表9-2>有機農業の農産物に対するイメージ/地域別、性・年代別



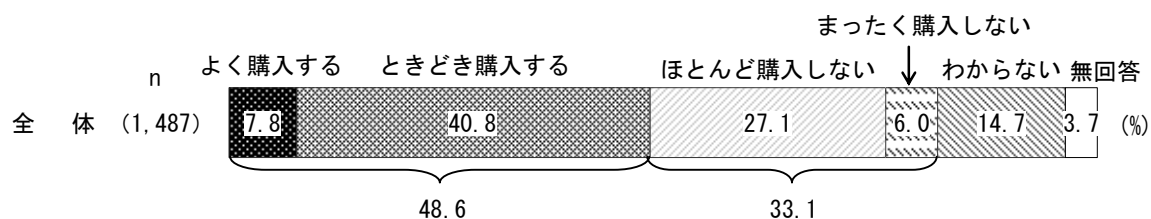
(2) 有機農業の農産物購入頻度

◇『購入する』が約5割

問 31 あなたはどのくらいの頻度で有機農業により生産される農産物を購入しますか。

(○は1つ)

<図表 9-3> 有機農業の農産物購入頻度



有機農業により生産される農産物の購入頻度を聞いたところ、「よく購入する」(7.8%)と「ときどき購入する」(40.8%)を合わせた『購入する』(48.6%)は約5割となっている。一方「ほとんど購入しない」(27.1%)と「まったく購入しない」(6.0%)を合わせた『購入しない』(33.1%)は3割台半ばとなっている。(図表 9-3)

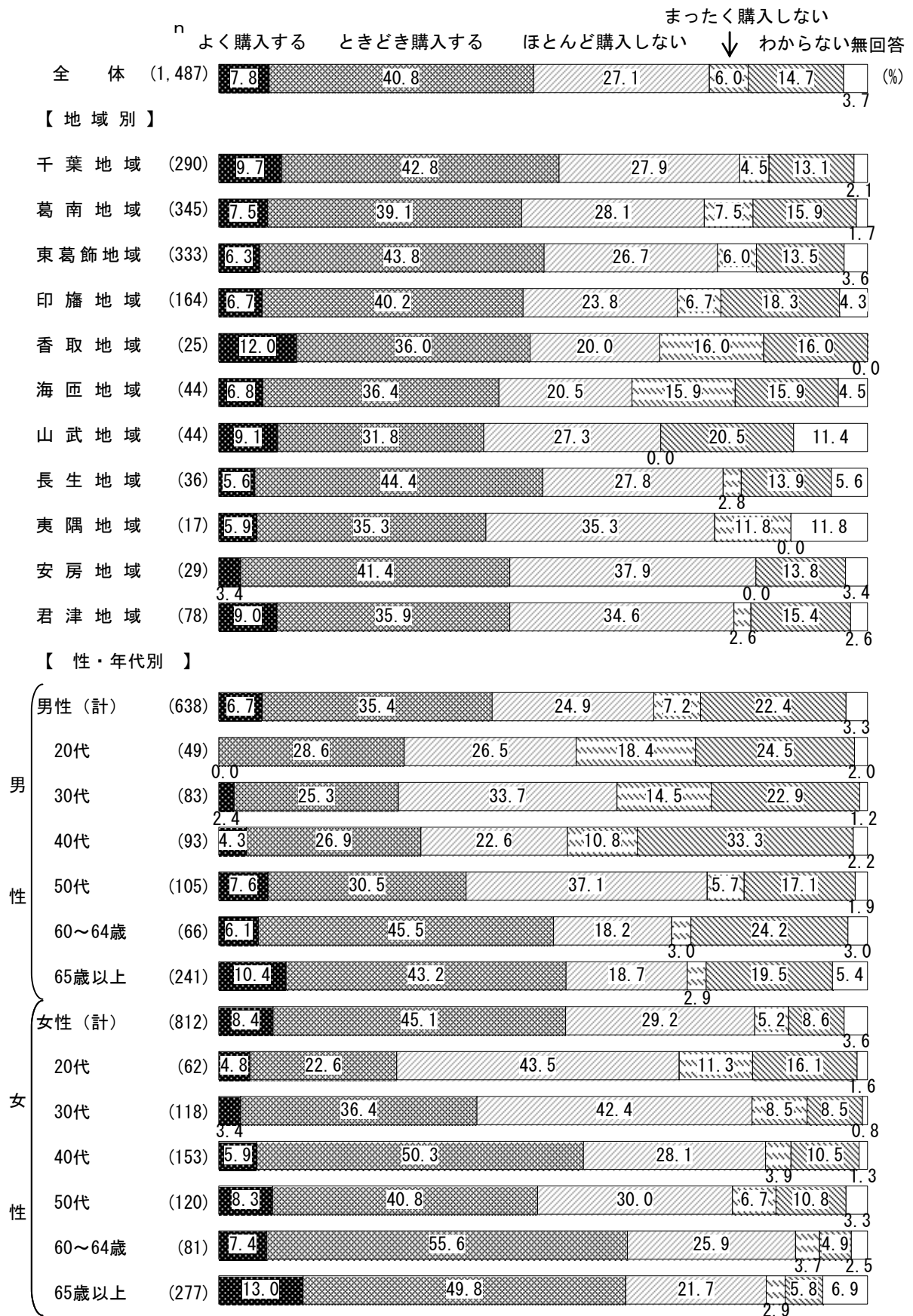
【地域別】

地域別にみても、『購入する』は“千葉地域”(52.4%)、“東葛飾地域”(50.2%)、“長生地域”(50.0%)が5割以上で他の地域に比べて高くなっている。(図表 9-4)

【性・年代別】

性・年代別にみても、『購入する』は女性の60~64歳(63.0%)、65歳以上(62.8%)が6割以上で他の年代に比べて高くなっている。(図表 9-4)

<図表9-4>有機農業の農産物購入頻度/地域別、性・年代別



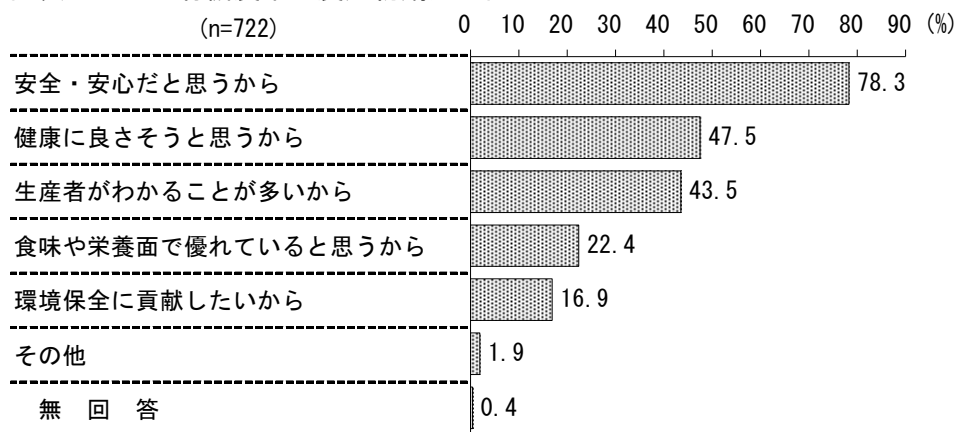
(3) 有機農業の農産物購入理由

◇「安全・安心だと思うから」が約8割

(問31で「よく購入する」「ときどき購入する」とお答えの方に)

問32 あなたが有機農業により生産される農産物を購入する理由は何ですか。(〇はいくつでも)

<図表9-5>有機農業の農産物購入理由



有機農業により生産される農産物を「よく購入する」「ときどき購入する」と回答した722人に、有機農業により生産される農産物を購入する理由を聞いたところ、「安全・安心だと思うから」(78.3%)が約8割で最も高く、以下「健康に良さそうと思うから」(47.5%)、「生産者がわかることが多いから」(43.5%)と続いている。(図表9-5)

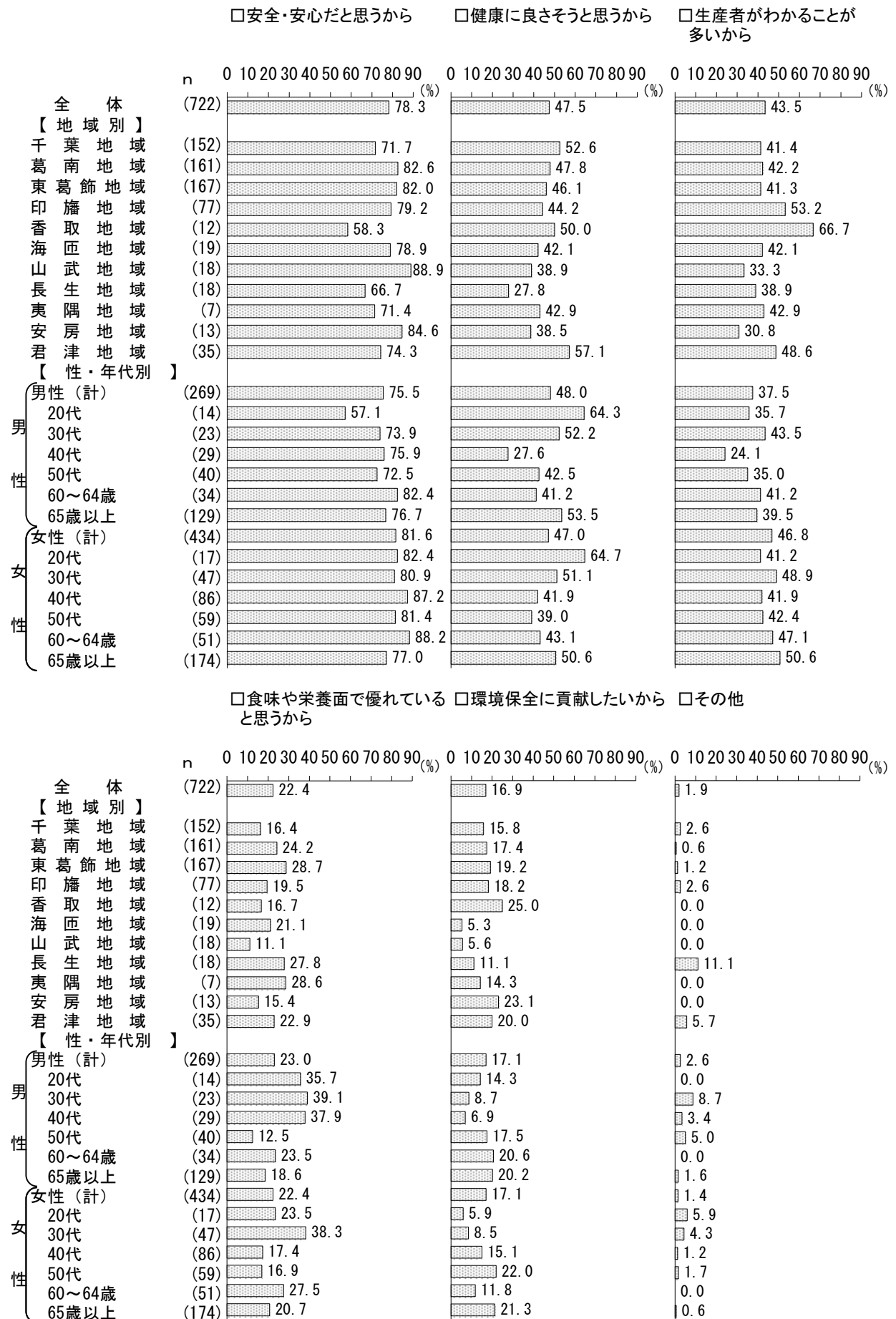
【地域別】

地域別にみると、「安全・安心だと思うから」は“山武地域”(88.9%)が約9割、「健康に良さそうと思うから」では“君津地域”(57.1%)が約6割で他の地域に比べて高くなっている。「生産者がわかることが多いから」では“香取地域”(66.7%)が6割台半ばで他の地域に比べて高くなっている。(図表9-6)

【性・年代別】

性・年代別にみると、「安全・安心だと思うから」は女性の60～64歳(88.2%)、40代(87.2%)が約9割、「健康に良さそうと思うから」では男女の20代(男性64.3%、女性64.7%)が他の年代に比べて高くなっている。「生産者がわかることが多いから」は女性の65歳以上(50.6%)が5割で他の年代に比べて高くなっている。(図表9-6)

<図表9-6>有機農業の農産物購入理由/地域別、性・年代別

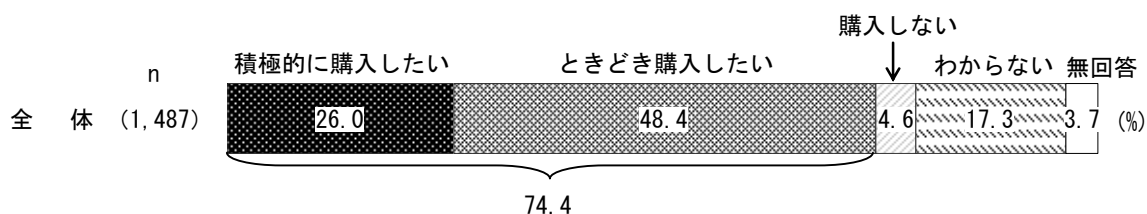


(4) 有機農業の農産物 今後の購入意向

◇『購入したい』が7割台半ば

問 33 あなたは、今後、有機農業により生産される農産物を購入したいと思いますか。(○は1つ)

<図表 9-7> 有機農業の農産物 今後の購入意向



有機農業により生産される農産物の今後の購入意向を聞いたところ、「積極的に購入したい」(26.0%)、「ときどき購入したい」(48.4%)を合わせた『購入したい』(74.4%)が7割台半ばとなっている。(図表 9-7)

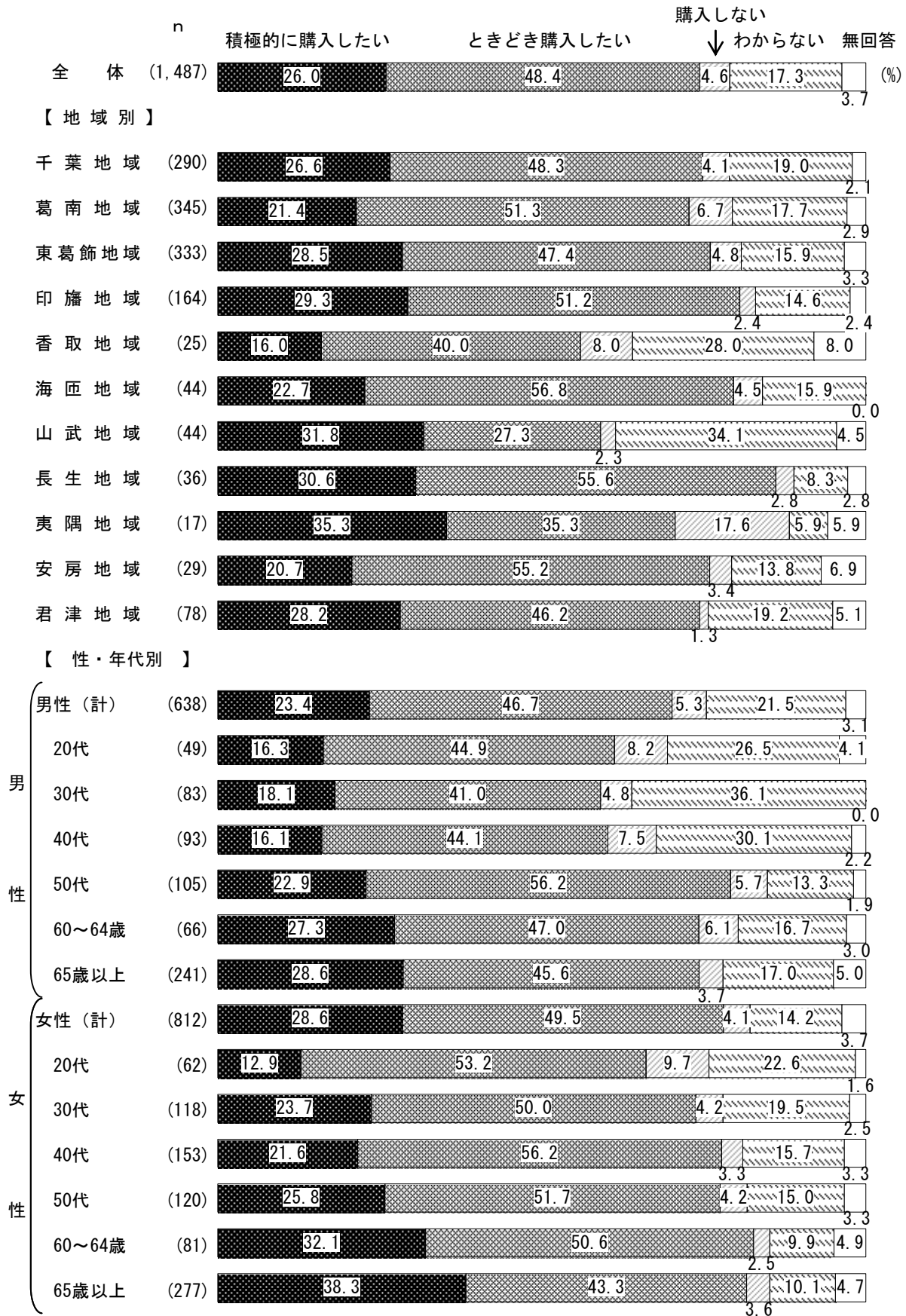
【地域別】

地域別にみても、『購入したい』は“長生地域”(86.1%)が8割台半ばで他の地域に比べ高くなっている。(図表 9-8)

【性・年代別】

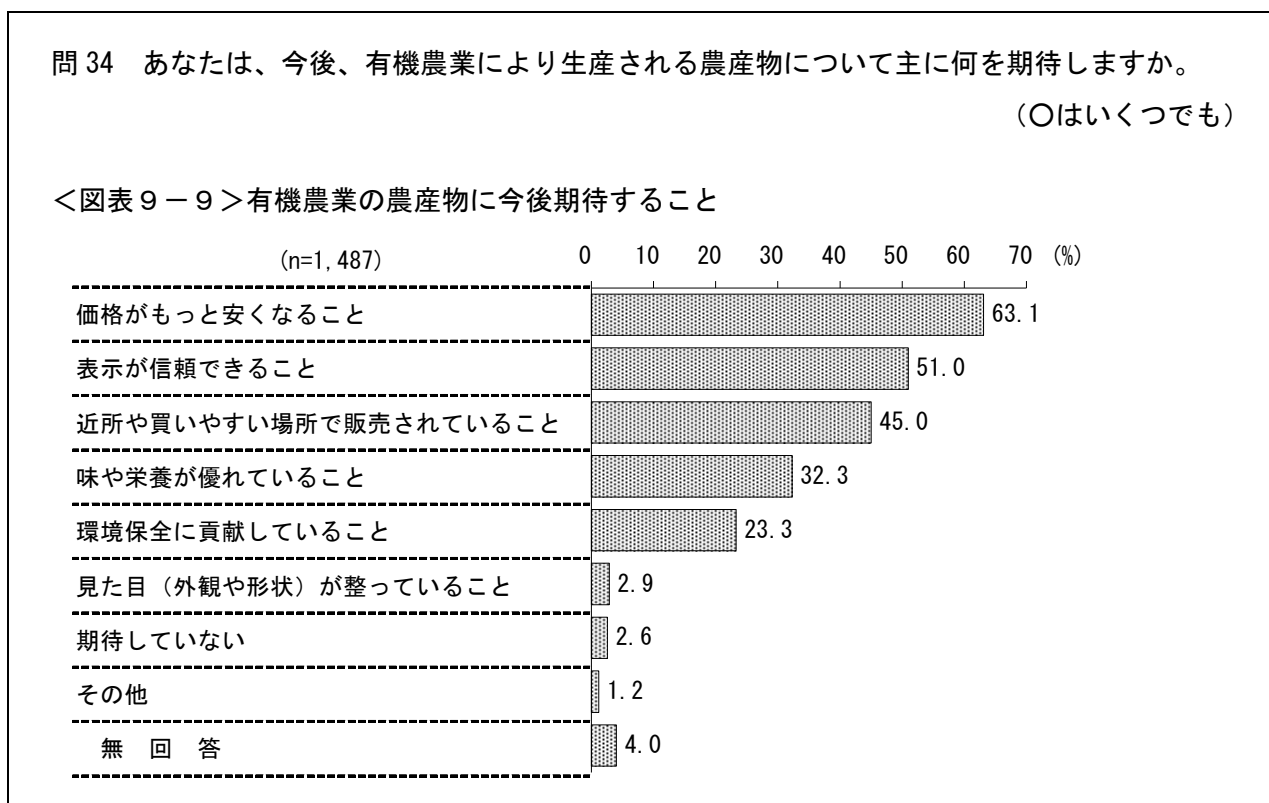
性・年代別にみても、『購入したい』は女性の60～64歳(82.7%)、65歳以上(81.6%)が8割を超えて他の年代に比べて高くなっている。(図表 9-8)

<図表9-8>有機農業の農産物 今後の購入意向/地域別、性・年代別



(5) 有機農業の農産物に今後期待すること

◇「価格がもっと安くなること」が6割台半ば



有機農業により生産される農産物に今後期待することを聞いたところ、「価格がもっと安くなること」(63.1%)が6割台半ばで最も高く、以下「表示が信頼できること」(51.0%)、「近所や買いやすい場所で販売されていること」(45.0%)と続いている。(図表9-9)

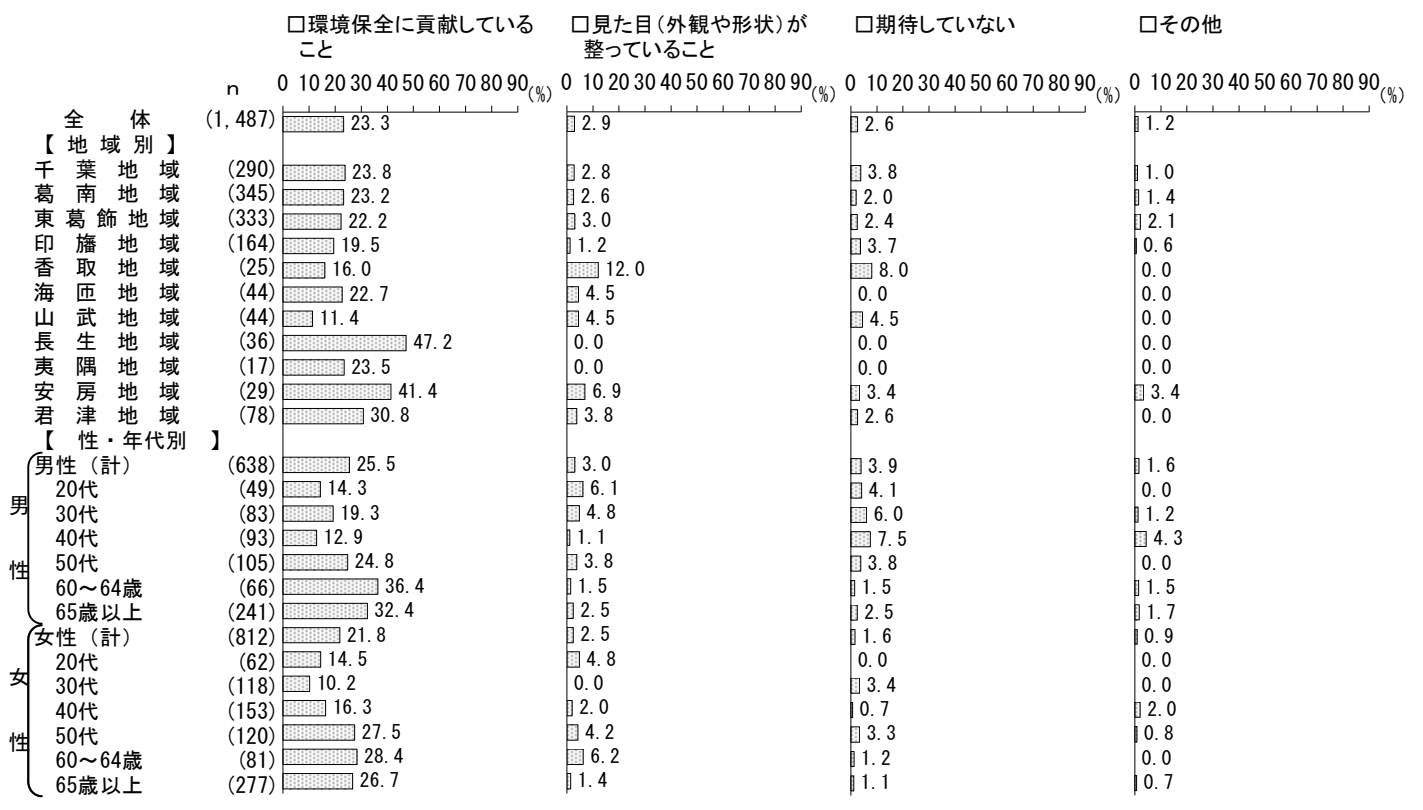
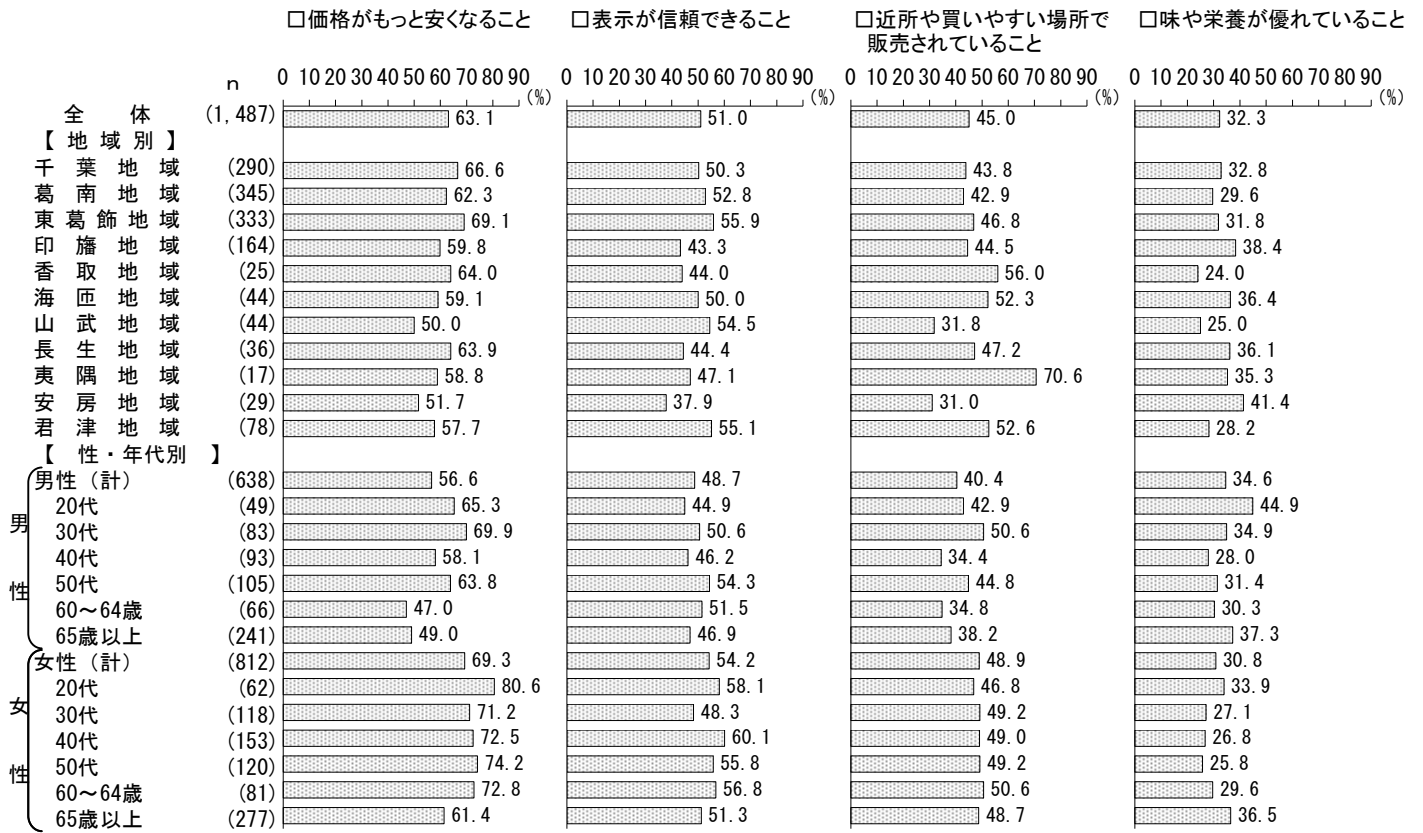
【地域別】

地域別にみても、「価格がもっと安くなること」は“東葛飾地域”(69.1%)が約7割で他の地域に比べて高くなっている。「表示が信頼できること」では“東葛飾地域”(55.9%)、“君津地域”(55.1%)、“山武地域”(54.5%)が5割台半ば、「近所や買いやすい場所で販売されていること」は“夷隅地域”(70.6%)が7割で他の地域に比べて高くなっている。(図表9-10)

【性・年代別】

性・年代別にみても、「価格がもっと安くなること」は女性の20代(80.6%)が8割、「表示が信頼できること」では女性の40代(60.1%)が6割で他の年代に比べ高くなっている。「近所や買いやすい場所で販売されていること」では男性の30代、女性の60～64歳(ともに50.6%)が5割で他の年代に比べて高くなっている。(図表9-10)

<図表9-10>有機農業の農産物に今後期待すること／地域別、性・年代別



このほかに、「有機農業について」やここまでの質問（問30～問34）について、ご意見やご提案があればご自由にお書きください。

ご意見やご提案を自由に記述していただいたところ、131人から回答が寄せられた。一部抜粋してご意見を記載するものとする。

■「有機農業について」の自由回答（抜粋）

- 安全であるとの印象が一番ある。ただ、価格の面で購入しづらい。様々な業態からの農業参入で、価格の面での改善があれば買いたい。（男性・40代・葛南地域）
- 価格がもっと安くても良いのでは？ 有機農業に行政から補助しても良いのでは？（女性・20代）
- 肉、魚、野菜を問わず、千葉県は食材に恵まれていて、それ程不満はない。有機農業には賛成だが、歩いて行ける場所で買えないため、利用頻度はそれ程高くない。（男性・40代・葛南地域）
- 生産者側の手間を考えると価格が高くなるのはわかるが、毎日のことになると買う側にはまだ価格の安い物を購入してしまう。（男性・50代・東葛飾地域）
- 完全な有機農業ができるのか疑問。自家用野菜を作っていますが、有機農業はとても大変だと思います。形も色も美しいきれいな野菜が全く消毒をしていないというのは少し不信を持っています。（女性・60～64歳・長生地域）
- 有機野菜の特長をもっとアピールしてもらいたい。スーパーなどで試食販売したり、有機野菜をおいしく食べるレシピなど紹介してほしいです。（女性・40代・安房地域）
- 安全安心な食物が、今ほど必要とされている時はありません。輸入に頼らず、自給率を高める工夫が、政治に求められています。（女性・65歳以上・東葛飾地域）
- 栽培者と消費者の間に本当に信頼関係があることが大切。上述がクリアできれば、余裕のある時は購入すると思う。（女性・65歳以上・長生地域）
- 生産者が増える事を望む。（男性・60～64歳・山武地域）
- 見た目は悪くても体にやさしいと思うし、農業でも、環境にやさしく出来る事でもある。
(男性・65歳以上・東葛飾地域)
- 有機農業は素晴らしいと思うが、全部をそうすることは不可能ではないか。出来るだけ有機で、不ぞろいのもので使うという意識を持ちたいと思う。（女性・65歳以上・東葛飾地域）
- 有機農業による農産物でなくても、健康や環境保全に害をなさなければ、あまりこだわる必要はないと考えます。（男性・60～64歳・印旛地域）